

第Ⅰ期幹事会(第7回)報告

庶務幹事 前田裕宣、坂井信彦

日 時：7月31日 午後2時～5時30分

場 所：兵庫県立先端科学技術支援センター 電子会議室(西播磨)

出席者：菊田、虎谷、下村、難波、渡辺、坂田、塩谷、菅、徳永、伊藤、坂井、前田、上坪、植木(共同チーム・財団)、船田(共同チーム)、鈴木、牧田(財団)、佐久間(事務局)。

議 題：

〈各幹事報告〉

1. 「光彩」発行について(編集幹事：難波)
 - ・ 「光彩」10号を6月に発行し、次号11号は9月末に予定している。
2. 平成8年度予算案について(会計幹事：虎谷)
 - ・ 平成7年度決算の報告と平成8年度予算について会計幹事から説明があり承認した。
 - ・ 会費の未納者について。
3. 「幹事会」を会則に明記することについて(庶務幹事：坂井)
 - ・ 「幹事会」の規定を会則に明文化することで提案説明があり議論した。次回幹事会で再度審議することとした。にゆだねる。
4. SPring-8利用者懇談会の(外国人/準)会員について(庶務幹事：坂井)
 - ・ 会費を納めず会の情報のみの提供を希望する、いわゆる「準会員」の規定に関して提案があり、論議の結果次のように決まった。
 - (1) 現行の会則第5条を「会員および準会員は」とし、準会員の入会も運営委員会の承認事項とする。
 - (2) 会則第8条として「外国に居住して、会費を納めずに必要な情報の提供を希望する人は“準会員”として登録する。ただし準会員には当会の選挙権はない。」を設ける。
 - (3) 現行の会則第8条を第9条として、「会員および準会員は・・・」に変更する。(脱会の届け出)。
5. 第10回日本放射光学会・放射光科学合同シンポジウムについて(行事幹事：坂田)
 - ・ 第10回日本放射光学会・放射光科学合同シンポジウムの日程が決まり、SPring-8利用者懇談会の総会は最終日の1月11日に開催予定である。

6. 報告書とAnnual Reportの整合性について（利用幹事：村田、代理説明：下村）
- ・今まで報告書とAnnual Reportで重複する部分が多く、サブグループ（SG）にとって混乱した面もあった。そこで、平成8年度と9年度については次のような方針で、報告書とAnnual Reportを作成することになった。
 - ①報告書は今年の形を踏襲し、ビームライン（BL）を建設しているSGは、今年度の進展を書いてもらう。また、10月に行われる新しい課題募集に応募したSGからは、その内容を報告してもらう。
 - ②BLを建設しているSGの報告は、フォーマットを変えてAnnual Reportに掲載する
 - ③利用研究を計画中のSGの報告は、Annual Reportに掲載しない。
7. ユーティリティ関連についての建設グループの意見集約について（利用幹事：松井、代理説明：下村）
- ・ユーティリティはその内容が多岐にわたり、また、設置のタイミングも一定しないので、建設を円滑に進めるためにはSPring-8利用者懇談会、共同チーム・JASRIとの間で緊密な連絡が必要である。懇談会としては、建設グループを中心とした利用者からの提案・意見などを集約し、又、共同チームでの建設案を周知させる体制をとることとする。この体制はJASRIに設けられている技術支援方策検討委員会と有機的な連携を取りながらおこなわれる。
8. 拡大世話人会開催について（行事幹事：坂田）
- ・平成9年度に設置完了予定の共用ビームラインで、最初の光でどのようなサイエンスをするのかを各SGが講演し、議論するためのシンポジウムを企画することが提案され、審議の結果了承された。

名称：SPring-8シンポジウム

日時：1996年10月28（月）、29日（火）

場所：兵庫県立先端科学技術支援センター・大ホール

主催：SPring-8利用者懇談会、大型放射光施設計画推進共同チーム（予定）、高輝度光科学研究センター（予定）

なお、詳細はプログラムが決まり次第、配布する予定にしているが、骨子は8月末までに各サブグループに連絡する。

〈会長報告〉

- ・JASRIとの懇談にあたり菊田会長からSPring-8利用者懇談会の現状の説明があった。

〈共同チーム及び財団の現状報告〉

1. SPring-8の現状（上坪氏）

- ・8月1日線型加速器のコミショニングを行う予定。10月にはシンクロトロンに電子ビームを入射する予定。今の所すべて順調にいととの現状報告。
- ・来年度の予算は厳しい見通し。
- ・正式な供用開始は来年の10月になるので、それに向けて課題の募集を今年10月から開始する。

次の5本のビームラインつまり生体高分子結晶構造解析、核共鳴散乱、結晶構造解析、XAFS及び高温構造物性のビームラインは、できるだけ蓄積リングのコミッ

ショニング時に同時にテストを行いたいので、来年10月からの共用開始に向けて早く立ちあげを行う。

- ・ ビームラインの建設チームが行う基礎的なテスト実験も出来るだけ課題申請を出して行っていただきたい。（課題募集の締め切りは来年の1月10日）
 - ・ 建設チームに参画していただく方のリストは科技庁から文部省に提出している。なお、出張される研究者（教官）の方は、客員研究員（無報酬）の身分で、JASRI 側から各大学に依頼するつもりであるが、詳細は検討する。
2. SG会合と建設業務との関連について（植木氏）
- ・ 出張の予算は各建設チームで違うので必要に応じて建設責任者と共同チームの担当者が相談する。ビームライン建設のために出張される方は、適宜建設責任者を通じて共同チームの担当者と打ち合わせをし、利用業務部の佐久間さん（JASRI）に連絡する。
- ただし、建設協力のための出張はSPring-8のサイトにくることを条件とする。なお、学生は各所属大学で保険に加入してくることを条件にする。
- ・ ここに述べたことは、当面来年3月末までの適用である。
3. 新規ビームライン建設について（植木氏）
- ・ ビームライン検討委員会ではIDのビームラインも有限であることを勘案して、その利用計画を調整することを検討している。なお昨年度ビームライン検討委員会の積み残しの医学利用のビームラインがあり、これは次回の検討項目として考慮されている。
 - ・ 11～20本目のビームライン建設計画趣意書の締め切りは9月30日である。